

## 外貨の上昇を背景に、円ベースのパフォーマンスの改善がみられる先進国債券

米国大統領選挙後、米国などの長期金利の上昇を背景に、先進国債券の利回りは上昇(価格は下落)しました。このため、現地通貨ベースの先進国債券のパフォーマンスは弱含んだものの、米ドルを中心に主要通貨が対円で上昇したことから、円ベースのパフォーマンスは改善基調となりました。

一般に、金利上昇局面で債券価格は下落傾向となりますが、為替ヘッジを行わずに海外債券に投資する場合、為替のボラティリティ(価格変動性)は債券のボラティリティより大きくなる傾向にあり、内外金利差拡大などから為替(対円)が上昇した場合、円ベースのパフォーマンスは改善することになります。

最近の欧米景気に目を向けると、米国は雇用市場の改善を背景にした堅調な消費に加え、企業景況感の改善に支えられて、景気拡大が続いています。そのため、インフレ率が強含んでおり、トランプ政権が検討している財政拡大策による景気への影響などを踏まえると、今年は年3回の利上げが予想され、金利先高観から債券価格には下押し圧力がかかりやすい一方で、米ドルの上昇期待が強まっています。また、欧州では、製造業を中心に企業景況感の改善がみられ、さらなる景気回復が示唆されています。それに加え、足元では原油価格の上昇などからインフレ率が持ち直しており、今後さらにインフレが加速すれば、ECB(欧州中央銀行)による金融緩和策の出口戦略を巡る観測などから、ユーロが強含む可能性があります。

今後、トランプ政権の動向や、欧州で相次ぐ選挙の結果などによっては、投資家のリスク回避姿勢が強まり、短期的に円高が進む可能性はあります。しかし、先進国債券は一般に安全性の高い資産であることから、リスク回避局面では買われる傾向にあり、為替の下落をある程度相殺することが期待できます。米国を中心に先進国の景気回復は続くとみられ、インフレ率や長期金利の上昇などを背景にした外貨の上昇圧力の高まりなどから、円ベースの先進国債券のパフォーマンスは、堅調に推移すると期待されます。

### 先進国債券のパフォーマンスと利回りの推移

(2016年1月4日～2017年3月3日) (%)

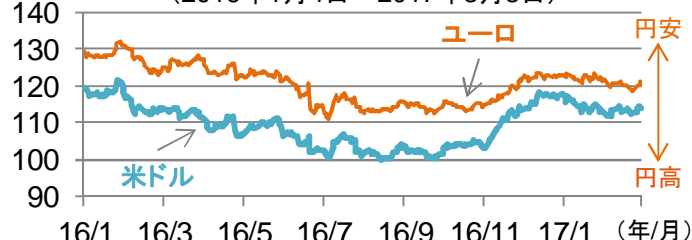


\*2016年11月8日(米国大統領選挙)を100として指数化  
先進国債券: シティ世界国債インデックス(除く日本)を使用

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

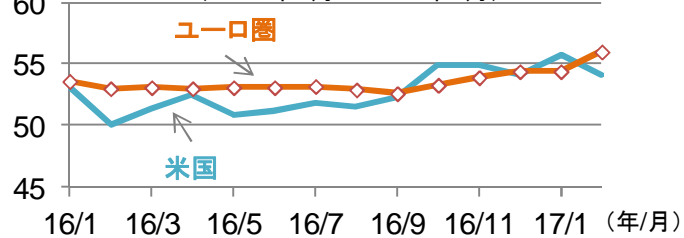
### 米ドルとユーロの推移(共に対円)

(2016年1月4日～2017年3月3日)



### 欧米の企業景況感\*の推移

(2016年1月～2017年2月)



\* PMI景況感指数(総合)

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。